

警 察 署 協 議 会 会 議 録

直方警察署協議会

開催年月日時	令和3年11月16日 午後2時00分 から 令和3年11月16日 午後3時05分 まで	
開催場所	直方警察署 4階大会議室及び武道場	
出席者	警察署協議会	会長以下8名
	警察署	署長、副署長、総務課長、会計課長、生活安全課長、地域課長、 宮若警部交番所長、刑事課長、交通課長、警備課長、総務第二係長
議 事 概 要		
【会長挨拶（要旨）】 直方警察署の皆様におかれましては、日ごろから地域の安全・安心のために丁寧な対応をしていただき感謝申し上げます。あと1か月足らずで12月となり、年末に向け、事件事故の増加が懸念されることから、引き続き地域の見守りやパトロールをよろしくお願いする。 【署長挨拶（要旨）】 約4か月ぶりの警察署協議会となる。本年9月に署長に着任してからの2か月間、様々な事案に遭遇しながら、日々、一生懸命活動しているところである。本日は、その活動等について説明させていただくので、忌憚のない御意見をお願いする。今後も、各種警察活動を推進していくのでよろしくお願いする。 【報告事項等】 1 交番・駐在所等の活動状況について（地域課長） (1) 直方警察署及び地域課の体制 (2) 交番・駐在所等の活動 警ら（パトロール）、立番、巡回連絡、事件・事故の初動対応、交通違反の取締り及び職務質問による犯罪検挙 (3) 装備品の紹介 (4) 110番通報受理状況 (5) 事件・事故発生状況		

議 事 概 要

(6) 事件検挙・抑止活動状況

(7) 駐在所の勤務条件の変更

2 コロナ禍における広報活動の推進状況について（総務課長）

【質疑応答等】

- 委員から「福岡県警察及び直方警察署の女性警察官の採用拡大について教えてもらいたい。」旨の質疑がなされ、総務課長から「福岡県警察では、令和5年までに全警察官の定員に占める女性警察官の割合を10パーセントにすることを目標にして、目標達成後も更なる採用拡大に努めることとしている。令和3年4月現在、女性警察官の割合は、県警全体で8.8パーセント、当署は7パーセントである。今後、女性警察官の採用拡大に伴い、当署においても女性警察官が増員されると思われる。」旨の回答がなされた。
- 委員から「県警の三大重点目標の一つに性犯罪の根絶が挙げられており、被害者の大部分が女性である。女性警察官がこのような性犯罪やDV事案に関わることが大切だと思う。」旨の意見がなされ、総務課長から「当署では、女性警察官が対応すべき事案の発生に備え、当直に女性警察官を配置するなどの運用をしている。」旨の回答がなされた。
- 委員から「福岡県警察及び直方警察署の男性職員の育児休暇の取得状況について教えてもらいたい。」旨の質疑がなされ、総務課長から「福岡県警察では、ワークライフバランスの推進による仕事と家庭を両立できる職場環境の整備に努め、男性職員の育児参加の促進を図っているところ、令和2年度中の男性職員の育児休業の取得率は、県警全体で1.3パーセントであった。このほか、男性職員を対象とした出産補助休暇及び父親育児休暇の取得率100パーセント、出産補助休暇（3日）と父親育児休暇（5日）を合わせて5日以上取得率100パーセントを目標にしているところ、令和2年中の県警全体の取得率は、出産補助休暇が94.6パーセント、父親育児休暇75.2パーセントであり、当署では、出産補助休暇が100パーセント、父親育児休暇が88.9パーセントと県下の取得率を上回っている。引き続き、男性職員の育児等への参加が促進されるよう努めていく。」旨の回答がなされた。
- 委員から「管内の高齢者関連の交通事故発生状況（全体に占める割合、事故の内容等）はどうなっているのか。」旨の質疑がなされ、交通課長から「令和3年9月末現在、高齢者関連事故は、県下4,653件（前年比－475件、割合31.9%）、管内141件（前年比＋22件、割合38.4%）である。当署管内における高齢者事故の割合が県下平均より6.

議 事 概 要

5パーセント高い要因は、65歳以上の免許保有者の割合が県下平均を8.1パーセント（県下22.7%、管内30.8%）上回っていること、地域的に日常生活（通院、買い物等）の交通手段として車を利用する方が多いことも一つと考えられる。当署管内における高齢者事故の内容は、形態別では、運転中は交差点の出会い頭や追突、歩行中は横断歩道横断中や乱横断中の事故が多い。発生時間帯別では、午前8時から午前11時、午後2時から午後5時の間が多く、高齢者の方が通院や買い物で移動する時間帯に多発している。発生場所別では、直方市では菜の花大橋から大型商業施設に向かう道路、宮若市は粥田橋周辺、鞍手町と小竹町はそれぞれ大型商業施設周辺で多く発生している。当署としては、交通事故が多発傾向にある午前中や薄暮時間帯における警戒活動及び重大事故に発展する速度違反や横断歩行者妨害の取締りを強化し、反射材の配布や着装への広報啓発活動を推進していく。」旨の回答がなされた。

○ 委員から「横断歩道等の白線が消えかかっている箇所が散見される。点検や修復はどのようにしているのか。」旨の質疑がなされ、交通課長から「横断歩道の点検・修復は、警察官による点検や住民からの要望等からその箇所を把握して現場点検を行い、修復必要な箇所について警察本部交通規制課に修復工事を申請する。同交通規制課は審査後、業者に工事発注して修復工事を行う。最近では、国道200号の新橋西交差点、県道福岡直方線の粥田橋西交差点を修復している。」旨の回答がなされた。

○ 委員から「最近、報道されている電動キックボード、電動自転車の問題点、注意点について教えてほしい。」旨の質疑がなされ、交通課長から「電動キックボードや電動自転車は運転免許や強制保険への加入が必要であり、公道を走行する場合は道路運送車両法の保安基準（制動装置や前照灯、方向指示器などの装備）に適合しなければならないなどの関連する交通ルールが周知されていないことが問題点である。例えば、原動機を作動せず、足で地面を蹴って走行、ペダルのみで走行する場合も運転行為となる。インターネット等で簡単に購入できるが、交通ルール等に関する説明がされていないものも多い。また、電動自転車と電動アシスト自転車の区別が分かりにくいことも一因である。これらの車両が絡む交通事故の増加が懸念されるが、令和3年中、県下では電動キックボード3件、電動自転車0件であり、当署管内での事故の発生はない。」旨の回答がなされた。

○ 委員から「管内の薬物事案の検挙数とその内訳を教えてほしい。特に、大麻に関しては低年齢化の傾向が顕著との報道もある。最近の傾向等、特徴的事象があれば教えてほしい。」旨

議 事 概 要

の質疑がなされ、刑事課長から「令和3年中の管内の薬物事案の検挙数は、覚せい剤事件3件、大麻事件6件、その他の薬物の検挙はない。大麻事案の特徴は、報道のとおり、本県に限らず全国的に若年層の使用が顕著で、本県では、20歳代が約5割、10歳代が約2割を占める。入手経路としては、知人、友人を介す、ツイッター等のSNSで知り合うなどして入手するケースが多く、面白半分、興味本位で使用している。」旨の回答がなされた。

- 委員から「管内の暴力団構成員及び親交者と認知されている者がどの位居住しているのか教えてほしい。」旨の質疑がなされ、刑事課長から「管内居住の暴力団組員数等は県警としては公表していないので、御理解をお願いする。」旨の回答がなされた。

【音楽隊による演奏】

- 委員らから「人は自然と音楽に惹きつけられる。音楽による広報はとても効果的だと思う。」「親しみやすい警察を感じる。」「コロナ禍であっても、必要なことは発信していかなければならない。是非、警察署でも音楽隊と連携した啓発活動を進めてほしい。」旨の意見がなされた。

【閉会】

次期開催日等の説明があった後、閉会した。